

静岡県漁業協同組合連合会
1056 静岡市追手町 9-18
15.8.22 ☎ 054-254-6011
編集・発行 = 指導部漁政課

1. 全国32港の1～6月累計取扱高まとまる 焼津は11万3430トンで2位

時事通信社はこのほど、15年1～6月累計の全国32港別取扱高をまとめました。

6月累計を取扱高順に並べてみると、数量では前年同期比で2位だった銚子が12万4315ト、前年同期に比べて12%の増加となり前年1位だった焼津を抜いてトップとなりました。焼津はほぼ前年並みで11万3430トの取り扱いとなりました。3位の福岡は7万8514トで1%減、4位の松浦は7万2633トで3%増、5位の枕崎は6万2994トで2%減とし、3位の福岡から6位の長崎までは前年同期と順位が変わらずに推移しました。

金額では、福岡が5%減の391億7900万円となりましたが、それでも他の漁港と大差をつけて1位となっています。続いて長崎が1%増の215億4884万で、3位の三崎も1%増、4位の焼津は14%減となったものの、前年と順位は変わらず、5位は松浦で5%増となり、前年5位だった下関と入れ替わりました。

2. 浅羽海岸サンドバイパス事業導入 福田漁港のたい積解消へ

県では去る8月7日、福田町役場において学識経験者、地元有識者等が出席して福田漁港・浅羽海岸サンドバイパス検討委員会を開催しました。

当日は、福田漁港から浅羽海岸を視察した後、委員会が開催され、システムの設置位置や土砂の採取、運搬方法などの基本条件の設定等を協議し平成17年度の整備を目指すこととなりました。

同漁港は天竜川から排出される土砂が東向きの波に運ばれ、西側航路や港内に大量にたい積し、漁港機能の低下や港の下手側に位置する浅羽海岸の侵食を招いています。

従来からたい積土砂は、船を使い侵食箇所に運んでいましたが、新システムではポンプで土砂を浚渫し、ベルトコンベヤーや圧送管などで運搬する効率的な方法で、動力源として風力発電を利用し、維持管理やトータルコストの縮減を図ります。

また、このサンドバイパス事業は、効率的な漁港整備と海岸保全に向けた水産庁の補助事業で、同システムが全国的に注目されます。

3. 漁港漁場担当者実務研修会開催

県漁港協会、県沿岸漁業振興協会では、去る8月8日静岡市のブケ東海静岡において、水産基本法及び漁港漁場整備法に基づく、漁港漁場整備長期計画事業の計画的かつ円滑なる推進を図るため漁港漁場関係担当者の意識高揚を高め本県水産業の振興発展に資することを目的として、市町村、漁協の担当者及び漁協系統団体の関係者等約80名が出席して、「平成15年度漁港漁場関係担当者実務研修会」を開催しました。

研修会では、主催者である両団体の佐藤副会長(信漁連会長)より、主催者の挨拶があり引き続き、「サンドバイパス事業について」=県漁港整備室 佐野主幹 「漁港漁場環境改善対策」=(財)漁港漁村建設技術研究所 加瀬主任研究員、同 佐野主任研究員 「未来の漁村のあり方」=宮城県立宮城大学 あんまくどなると助教授 「焼

津漁港タラソテラピー事業について」=焼津市 三野経済部長 「磯焼け対策について」=県水産振興室施設整備室 吉川主査より、夫々講演が行われました。

なお、あんまくどなると氏の全国各地の漁村におけるホームステイを通しての交流談話では、漁民との心あたたまる話しげなされ出席者より大きな拍手が送られました。

4. 北西太平洋サンマ漁海況予報まとまる

水産総合研究センター東北水産研究所は8月6日、今期の北西太平洋におけるサンマ漁の漁況・海況予報をまとめました。

それによると、太平洋沿岸各地の水研・水試などが6月から実施した調査で、東経155度より沖合側で濃密な魚群が確認され、直近(7月中旬)の釧路水試の調査では、沿岸付近の調査点でもまとまった漁獲が見られたうえ、道東沖の小型船によるサンマ水揚げも好調なことから、沖合を含めたサンマ資源量は「昨年を上回る」と予測しており、漁獲が伸び悩んだ昨シーズンの20万5千トを上回る好漁が期待できそうです。

魚体については、いずれの調査でも大型魚主体の漁獲となったため、今漁期に来遊する魚群は大型の割合が非常に高く、漁期を通じて漁獲物は大型主体と予測しました。

漁場形成については、引続き道東から色丹島沖合に形成され、沖合からの魚群加入が続くが、道東沿岸は水温勾配がなだらかで魚群が広く分布することから、漁場は分散すると予測しました。

三陸沖には、魚群の南下を阻むような強い勢力の暖水塊がないことや、親潮第一分枝の張り出しや黒潮暖水の位置が南偏していることなどから、魚群の南下は平年より早めで、9月下旬頃には漁場が形成されると予測しています。

なお、本県からは、伊東市漁協1隻、安良里漁協2隻、戸田漁協1隻が既に本年度サンマ漁に出漁しており、これら出漁船の大漁が期待されます。

5. 第4回シーフード料理コンクール作品募集のお知らせ

JF全漁連中央シーフードセンターでは、新鮮な感性と豊かなアイデアを生かした魚料理を発掘し、若い世代の食生活に結びつけるため、全国の学生・一般・プロ等を対象とし、第4回シーフード料理コンクールの作品を全国から募集していますのでお知らせします。

テーマ:「ワンポットで手軽に出来る家庭料理」 主材料に魚介類を使い主食はご飯で、副材料に海藻類か緑黄色野菜を使用し、浜の料理の部では、県内で取れる海産物を使用
材料費は3,000円以内(4人分) 調理時間は1時間以内 ワンポットは、鍋・フライパン・蒸し器・中華鍋・オーブン・電子レンジ・圧力鍋・電器釜等のいずれか1器具
出品作品の食器などは各自持参する

部門及び応募資格: プロの部 = 調理専門学校の生徒を含む 学生の部 = 小中高年生
一般の部 = 以外の方 浜の料理の部 = 漁業関係者

応募・問合せ先: JF全漁連中央シーフードセンター 〒101-8503東京都千代田区内神田1-1-12 TEL03-3294-9671 FAX03-3294-3347 応募締切: 平成15年9月30日

6. 諸会議・日程(8月26日(火)～9月8日(月)) - 既報分省略 -

9月4(木)～5日(金) 県JF共済推進本部 = 幹事長合同会議 (サンバレー富士見)

9月4日(木) 県桜えび漁業組合 = 役員会 (県水産会館)